

モナッシュ大学でのミニシンポジウムに参加して

モナッシュ大学の訪問は早稲田大学の西出教授とモナッシュ大学の Prof. Hearn の Opening address で幕を開けました。初日はモナッシュ大学の先生方の講演に参加しました。Prof. Patti や Prof. Jackson による、資源の有効活用や低環境負荷を目指した合成、そして Prof. Hearn によるグリーン・ケミストリーの紹介と持続可能社会への戦略について伺い、研究者として成長していく自分たちが為すべきことについて考えるきっかけとなりました。

講演の後にはモナッシュ大学の学生の案内により研究施設を見学しました。整えられた研究環境だけでなく、その中で真剣に研究に取り組む学生の姿を目の当たりにし、共にエネルギー関連の課題に挑む仲間が、また、見方を変えるならば自分達のライバルが、このように世界中で活動的に研究に励んでいることを強く意識しました。

その日の夜はモナッシュ大学の学生と共にダウンタウンのレストランへ・・・学生生活やオーストラリアの文化だけでなく、海外の学生の研究に対する考え方を聞くことができ、貴重な時間を過ごしました。

ミニシンポジウム準備期間には、合間を縫ってメルボルン近郊の散策もしました。有名なフィッシュ&チップスのお店に行ったり、ちょうど時期良く開催されていた全豪オープンに足を運んだりしました。大学内だけでなく、オーストラリアの街並みや人々の生活に触れる事ができ、研究発表の準備に追われる傍ら、有意義な息抜きとなりました。

モナッシュ大学訪問最終日、ミニシンポジウムにおける学生発表当日を迎えました。午前はモナッシュ大学の若手研究者達による講義に参加しました。グリーン・ケミストリーに基づく研究アプローチやその成果を含めた実践について聴講し、各講義内容に対してモナッシュ大学の学生や若手研究者と白熱した議論を交わしました。



プレゼンテーションの様子

午後のミニシンポジウムでは早稲田大学からの 6 名の学生と、モナッシュ大学からの 4 名の学生が自身の研究について発表し、それぞれの発表に対して両校の学生、先生方と交え活発な質疑応答が行われました。スライドの流れと原稿を頭に叩き込んで発表に臨んだ

のですが、英語での口頭発表は不慣れだったので、とても緊張し、満足する出来ではありませんでした。しかし、国境を越えて自身の研究内容をいかにアピールしていくか、身をもって学ぶと共に、様々な専門の方と立場や国籍の違いによらず討論することで、新しい視点が得られ、非常に良い経験となりました。運良くシンポジウムの優秀発表者にも選んで頂き、海外発表における大きな自信となりました。

モナッシュ大学訪問を通して、海外の方々の研究内容のみならず、それに対する姿勢や議論の進め方、考え方を学び、大変充実した滞在となりました。



Milton Hearn 先生、朝日透先生と共に